

令和8年3月25日

世田谷区立千歳中学校 保護者の皆様

みのりの学び舎

世田谷区立千歳中学校

校長 和田 祐一郎

### 令和8年度に向けた改善方策について

早春の候、日頃より本校の教育活動にご理解、ご協力いただきありがとうございます。

さて、昨年末に実施の学校関係者評価アンケートでは、ご協力をありがとうございました。

ご回答いただきましたアンケートは、「世田谷区教育委員会による集計」「学校関係者評価委員の皆様による分析・検討」を行い、結果を「令和7年度学校関係者評価結果について」としてまとめました。

千歳中学校では学校関係者評価委員会からの報告をもとに、校内で実施した教職員による全方位点検と合わせて、次年度の学校運営並びに教育活動を下記のように改善していきます。

なお、学校関係者評価委員会からの報告、学校自己評価報告書、各項目の評価結果につきましても本校のホームページ上に掲載しますのでご覧ください。

### 記

- 1 学校関係者評価アンケートの回収率 ※（ ）内は昨年度  
保護者：58.6%（53.7%） 地域の皆様：15人（26人）  
生徒：87%（82.0%）
- 2 学校関係者評価結果の概要
  - （1）今年度は保護者からの学校関係者評価アンケート回収率が昨年度より増加しました。  
回収率：令和4年度62.2%→令和5年度：77.6%→令和6年度：53.7
  - （2）生徒アンケートの全項目24のうち、21項目が70%以上の肯定的回答でした。  
（昨年度同様）また、16項目が80%以上の肯定的回答でした。（昨年度+1）  
昨年度と比較するとほぼすべての項目で肯定的回答割合が上がっていました。成果を上げた項目の取組を充実・改善していくことが大切と考えています。
  - （3）保護者アンケートの全項目33のうち、18項目が70%以上の肯定的回答を得ています。  
（昨年度同様）今年度は、インターネットを介してのアンケート4年目となり、未提出の方へ何度か送信をし、回収率が増加しました。
  - （4）地域アンケートの14項目の3つを除いて、70%以上の肯定的回答を得ています。昨年度に引き続き、学校ホームページの更新や学校・学年だよりの定期的な発行等により、学校の教育活動を周知して学校の取組を理解していただけた結果だと考察しています。

以上のことから、概ね生徒・保護者や地域の皆様には、本校の取組を肯定的に捉えていただいていると考えられますが、学校関係者評価アンケートの回収率を上げるとともに、課題に対して焦点化した改善策を講じ、さらに生徒にとって、安心・安全で安定した学校生活を提供できるよう次年度以降も努めていきます。

### 3 改善策について

学校関係者評価委員会からの報告をもとに、校内で実施した学校自己評価と合わせて検討しました。結果、次の4点を次年度の重点目標として設定し、内容に示しました教育活動の充実に努めていきます。

#### (1) 重点目標について

- ①生徒の主体的な学びを支え、学びの自立を図る。
- ②これからの社会に必要な社会性を身につけ、さらに伸ばしていく。
- ③自らの学習や生活や進路などの目標に向け、計画、修正、改善しながら行動できるようにする。
- ④地域的な特色を生かした創造的な教育で対応する学校。

#### (2) 内容について

##### ①生徒の主体的な学びを支え、学びの自立を図る。

知識や情報や言語を活用する能力の育成し、生徒自身による学び方の工夫を促すことで主体的に学習に取り組む態度を育てます。(課題発見、課題解決への計画の立案、必要な情報や知識や技能を収集・習得、粘り強い課題解決、他者との協働、援助希求など)

ア 世田谷区教育要領に則り、教材の工夫やICT活用を通して、知識・技能の定着及び思考力・判断力・表現力等を伸長するために、「楽しい、よくわかる、生徒が主体的に学び合う」活動を重視した授業を展開し、学習への意欲を高める。

イ 繰り返し学習や補習により、基礎的・基本的な知識・技能を定着させる。

ウ 学びに向かう力を伸長するために、校内で学習評価及び授業力向上に関する研修を積むとともに、生徒・保護者へ学力の定着や学習評価に関する情報提供を計画的に行う。

エ 英語の学力定着のために、個々の形成的テストの結果に応じた指導(少人数指導)及び、指導方法の研究・実践(音声言語中心の授業等)・改善を行う。また、音声言語(理解力・表現力)を重視した授業を展開する。

オ 個々のICT活用能力を伸長するために、ICT機器の効果的な活用の研究と実践を行うとともに、全国学力学習状況調査等の各種調査結果を分析・活用し、各教科の課題に応じた指導を行う。

カ 身近な問題に関心を寄せ、課題解決能力の伸長を図るために、SDGsの17の目標に基づく体験的な学習等を一年間通じて(長期休業中を含む)取り入れ、見学や調査、発表や討論等の探究的な学習活動の充実に努める。

キ 体力向上・健康への意識を高めるために、体力調査の結果の分析・改善策の提示を行う。また、がん教育や性教育等、外部講師を活用した授業を系統的に行い、生徒が知識を蓄え、活用できるよう取り組む。

##### ②これからの社会に必要な社会性を身につけ、さらに伸ばしていく。

他人と円滑に人間関係を構築する能力の育成し、生徒が互いに思いやり、あいさつや自他の生命及び人権を尊重できるようにする。(特別活動 学級活動・生徒会活動・学校行事の充実によって、協働の喜びと自己効力感を実感させる)

ア 自他の生命を尊重する態度を養うとともに、個々の自尊感情を高めるために、自らの力で課題を解決する場面、生徒個々の役割を果たす場面、生徒相互に評価し合う場면을学級・学年での活動に設定し、人権意識を涵養する。

- イ インクルーシブ教育を推進し、特別な支援を要する生徒に関する情報を全職員で共有し、可能な限りの合理的配慮を行う。
- ウ 「思いやり、感謝」「克己と強い意志」「公平、公正」「よりよい学校生活、よりよい集団生活」を道徳教育の重点目標とし、道徳的実践意欲と態度を高めるために、複数回の指導及び地域等と連携した指導を行う。
- エ 一人一人が学校内外において集団生活のルールを守り、自己の行動に責任をもって行動できる態度を高めるために、リーダーシップを育む教育及び、生徒が主体的に考える自治活動の充実を図る。
- オ 人間関係形成能力の伸長を図るために、構成的グループエンカウンターを、年間を通じて計画的に活用するとともに、個々の責任を果たし、協働的な取組を充実する。
- カ 自己や他者理解を深め、未来への視点を持ち、たくましく生き抜く意志を高めるために、学校行事等において、コミュニケーション能力を伸長する活動を設定する。
- キ 問題行動の未然防止のために、法教育を系統的に行い、自分の行動について考える指導を行う。また、「嚮 大切にす 素直・正直 気づく」を共通の言語として位置づけ、その理解に基づく行動を促す。また、基本ルールの意義について考える時間設定をする。
- ク 小学校と中学校の児童・生徒間の交流を深め、学び舎の取組を充実し、生徒の自治意識を涵養する。また、教員間の連携を深め、小中学校の接続を円滑にする。

③自らの学習や生活や進路などの目標に向け、計画、修正、改善しながら行動できるようにする。

計画を作り実行する能力を育成し、自己理解を深め、生徒が夢や希望、目標をもつことを大切にし、その道のりを考える機会を大切にする  
 (「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」(レジリエンスを育む)「課題解決能力」「キャリアプランニング能力」を、特別活動を要し各教科・領域で高めていく。)

- ア 学校全体で、探究的な学習の実践(千歳ゼミ)に取り組むとともに、生徒の学習意欲向上のために、レジリエンスの指導や充実するための手だてを構築する。
- イ よりよく自己実現を図ろうとする態度を伸長するために、レジリエンスに関する学習を系統的に行う。また、地域・民間企業等との連携を深め、人と人との関係を大切にし、自己のキャリアを考える指導を充実する。
- ウ 生徒個々の将来設計能力を伸長するために、進路のガイダンス機能を充実するよう上級学校調べ、訪問やその他の進路学習を通じて中学卒業後の進学についての理解を深める進学指導を第1学年から行う。
- エ 系統的、計画的なキャリア教育を推進し、自己理解を促す学習と体験学習をバランスよく組み合わせ、課題対応能力やキャリアプランニング能力等を向上させる。
- オ 生徒会が自ら企画して地域行事への参加や地域ボランティア活動等に取り組めるよう支援体制を整える。
- カ 生徒に実質的な活動の場を与え、主体的に判断し、挑戦させる。
- キ 生徒自らの行動規範となるべく生徒が主体となって「生活のきまり(校則)」を見直す。(多様性の尊重)

④地域的な特色を生かした創造的な教育で対応する学校。

学校運営協議会、実行グループ(学校地域支援本部)との協働、コミュニティスクールとしての学校体制の確立、世田谷9年教育 学び舎の充実、地域主催行事への参加

- ア 学校運営協議会、実行グループと連携し、英語検定への取組を奨励する等により、生徒の学力向上に向けての意識付けを図る。
- イ 学校運営協議会、実行グループへ様々な場面で協力を仰ぎ、地域の力を学校教育に生かす。
- ウ 学び舎の連携小学校との合同研修会を年4回実施する。また、非認知能力を伸ばす取組みや小学生と中学生の交流についても探りながら。小中9年教育 学び舎を推進していく。
- エ 学校公開週間で保護者の参観を増加させる取組を行うことや、保護者も学べる機会（SNS等）を提供する。
- オ 保護者アンケートの結果をホームページに公開し、保護者とともに学校作りに取り組む体制をつくる。